



シルクストール (登録番号M-28 第2類型) (株)宮坂製糸所
価格 8,800円(税込):岡谷産繭100%を使用しインド茜(アカネ)という天然の染料で染め上げた薄手のストール。温かみのある色とシルク特有の光沢が織りなす風合いが魅力。シンプルなデザインなのでカジュアルな装いからオフィススタイルまで幅広いコーディネートに合わせられる。



Okaya silk

〈特集〉 新たなシルク文化の創造

岡谷シルクを纏う

岡谷市は、かつて日本の製糸業の中心地として栄えたシルクの歴史と文化が根付くまちです。いま、岡谷市や地元金融機関、商工会議所、シルク関連団体などが中心となって、この輝かしい歴史と文化に基づいた岡谷シルクのブランディングを進めています。

その取り組みの一つとして、岡谷産の生糸を使用した商品などを岡谷シルクブランドとして認証する取り組みが進んでいます。



第1類型
プラチナシルク

岡谷シルクブランド認証製品は第1類型から第4類型まであり、第1類型は繭・生糸ともに100%岡谷産を使用した製品、第2類型は岡谷産生糸（国産繭50%以上）を使用した製品、第3類型は桑や蛹など製糸工程で抽出されるものを使用した製品、第4類型は岡谷シルクに関連する体験が対象となります。

令和4年度に始まった認証制度ですが、この2年半の間に79件の製品が認証されています。

「岡谷シルクブランド認証製品」登録数(令和6年9月末)

79 件



「岡谷シルクブランド認証製品」について

増える岡谷シルクブランド認証製品

岡谷シルクと岡谷シルクブランド認証製品の魅力



商品名：シルクホワイトエール
登録番号：S-19 (第3類型)
事業者：有限会社日本亭
説明：クラフトビールに食用のシルクパウダーを用いた岡谷市の特色を持つビール。
価格：950円(税込)

商品名：シルク入り絹の都化粧水
登録番号：S-21 (第3類型)
事業者：シルク専門店 絹の都
説明：天然水などの自然原料を使用し、肌への刺激を最小限に抑えた化粧水。
価格：2,640円(税込)



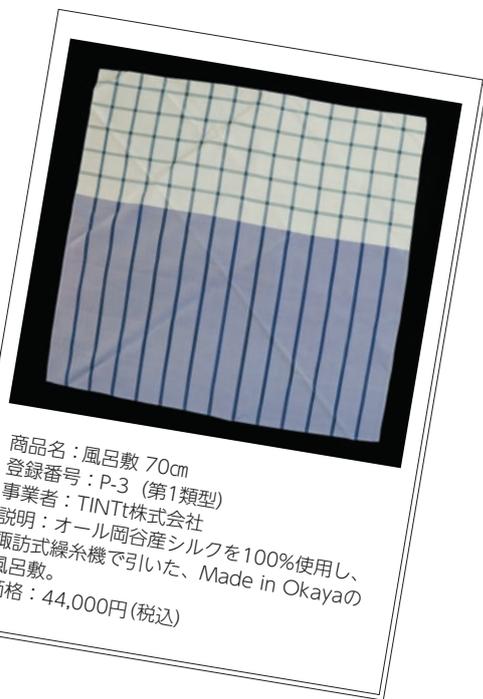
商品名：シルクの張り子帯留め
登録番号：M-44 (第2類型)
事業者：植松 ゆりか
説明：伝統的日本工芸技術とシルクを組み合わせた独自で美しい帯留め。
価格：9,130円(税込)

世 界から「SILK OKAYA」と呼ばれた岡谷。そこには岡谷独自の「諏訪式繰糸機」を生んだ「ものづくりの精神」と製糸業を支える工女さんを育んだ「人づくりの精神」がありました。「岡谷シルク」は地域の誇りである「ものづくりの精神」と「人づくりの精神」を継承し、岡谷でしか体験・体感できない価値の提供をコンセプトとした地域ブランドです。

いま、岡谷市には三沢区民農園による養蚕、全国に4軒となった製糸工場のひとつ(株)宮坂製糸所、京都・西陣の帯や有名ブランドの服地など、活躍の場を広げる岡谷絹工房があり、原材料の調達から製品化まで一貫して行える体制が整っています。これは全国的にも稀^{まれ}であり、こうした環境と岡谷市のシルクの歴史、ストーリーに基づいた岡谷ならではの価値こそが岡谷シルクブランド認証製品の魅力となっています。



商品名：ナイトキャップ
登録番号：M-36 (第2類型)
事業者：atelier Kanon
説明：高品質シルク生地を使用。静電気や乾燥から髪を守りストレスも少ないナイトキャップ。
価格：10,000円(税込)



商品名：風呂敷 70cm
登録番号：P-3 (第1類型)
事業者：TINTT株式会社
説明：オール岡谷産シルクを100%使用し、諏訪式繰糸機で引いた、Made in Okayaの風呂敷。
価格：44,000円(税込)

クリエイターから見た 岡谷シルクの魅力

天然素材にこだわって、「ずっと使えるもの」としてシルクの布で作っています。岡谷シルクは、岡谷で生産された繭を岡谷で糸として製品化した、貴重な天然素材です。温かみのある風合いの生地は、見るだけでワクワクして創作意欲をかきたてられます。

★ ナイトキャップの特徴・使用感

ナイトキャップは、夜寝るときにかぶって使用するもので、女優さんなど髪を大切にされている方に人気があります。天然のタンパク質で

市外在住ですが、ハンドメイド作品販売のイベントで、「岡谷市の特産品を生かした作品を作る」という企画があり、岡谷シルクの存在を知りました。

★ 「岡谷シルク」との出会い

ナイトキャップを制作した作家さんに「岡谷シルク」の魅力を知りました。

atelier Kanon
アトリエ・カノン
洋裁師 古田 麻由里さん

〈プロフィール〉
アパレル企業でパタンナーを経験。手作りの服や布小物をインターネットやその他イベントなどで注文・販売をしている。岡谷シルクと出会い、岡谷シルクブランド認証商品の「ナイトキャップ」を制作。その他、岡谷シルクを使った小物を制作・販売。岡谷シルクの良さを作品を通じて広めている。山形村在住。



モノだけじゃない

体験も岡谷シルクの魅力！

岡谷シルクでは岡谷だからこそ味わえる体験も魅力のひとつ。歴史ある岡谷での養蚕体験、国登録有形文化財の中で行う機織り体験などには、市民の方はもちろん、市外・県外からも多くの人が訪れています。

✧ 滞在型ワークショップ

岡谷絹工房にて「岡谷シルク」に触れて実際に自分の手で織ることができるワークショップです。観光も楽しみながら、市内に滞在し、時間をかけ本格的な自分だけの絹製品（ストールや帯など）を制作できるプログラムになっています。



✧ 養蚕体験

三沢区民農園で実施される年2回の養蚕時に、養蚕業の現状やカイコの生態、絹糸の性質などの学習をし、三沢区民農園の養蚕現場で桑の葉の刈り取りや給桑、収繭作業などを体験することができます。

担当者の想い



ブランド推進室
柴垣

岡谷シルクの魅力は、他地域ではなかなかできない養蚕体験や歴史ある施設で日常を忘れて没頭できる機織り体験など、貴重な体験ができることです。県外から参加される方からも、「歴史ある建物内で静寂に包まれながらの機織り体験に感動した」「岡谷の製糸業の歴史が学べた」「お蚕さまに触れて楽しかった」など大変好評をいただいています。ぜひ、市民のみなさんには、岡谷シルクが誇らしい地域資源であることを再発見してほしいと思っています。

Okaya silk



商品名：糸かけアクセサリ
登録番号：M-31（第2類型）
事業者：小林 奈々絵
説明：華やかな服装、カジュアルな服装にも、さまざまな場面で使えるアクセサリ商品。
価格：3,630円(税込)



商品名：岡谷シルク【大和源氏】バレッタ
登録番号：M-33（第2類型）
事業者：KAKEKASANE
説明：伝統工芸技術の組ひもを使用した、2種類の異なる製法で製作したバレッタ。
価格：5,000円(税込)



商品名：ランプシェード絹きらめき
登録番号：M-7（第2類型）
事業者：味澤製絲株式会社
説明：繭から引き出した繭糸を、ぬれた状態で球体枠へ巻き付け、乾燥後に枠を取り外して作成。
価格：33,000円(税込)



できているため、髪や肌に優しく、静電気や摩擦から髪を守り、寝癖がつきにくく、髪に艶が出てきます。

岡谷シルクの可能性

布に限らず、糸の状態でも魅力的な素材なので、編み物作家さんなど、これからもいろいろな作家さんに新しい作品を作ってもらえるのではないかと思います。伝統を守りながら現代に合ったものも作っていくことが、「シルク」を継続していく一つの方法だと思います。そういった意味でも、とても可能性のある素材だと思います。今後も引きつづき制作できるように、岡谷シルクの生産をぜひ続けてほしいと願っています。

市民が誇る「岡谷シルク」

岡谷シルクでは初となる着物が岡谷市に寄贈されました。

市内の呉服店「きもの屋そねはら」さんが、10月21日に「岡谷シルクブランド認証製品」の反物「漣」で仕立てた羽織を市に寄贈しました。



羽織を寄贈した、きもの屋そねはら代表 崇原道彦さんと羽織を着た早出市長

「漣」から仕立てた 寄贈された羽織



岡谷シルクブランド認証製品 岡谷シルク色紬「漣」(登録番号：M-41)から仕立てた羽織。絹100%。三沢区民農園産の繭を宮坂製糸所で製糸した糸を使用し、独特な艶と真綿を折込んだ柔らかい地風が特徴。繭の色を生かすために色を染めず仕立てた。「肩裏」と呼ばれる裏地には、製糸産業が盛んであった当時の岡谷の風景が描かれた鳥瞰図をプリントし、「岡谷シルク」のブランドロゴを五つ紋の位置にあしらっている。

Interview インタビュー

「岡谷で生まれ育ったからこそその思い

岡谷シルクブランド認証製品『漣』を作り、願うこと」

きもの屋そねはら 代表 崇原道彦さんに寄贈に至った思いを聞きました。



きもの屋そねはら
代表 崇原 道彦さん

岡 谷市の生まれで、製糸工場のすぐ近くで育ち、小さい頃から製糸工場の繭の匂いに包まれて遊んでいたわたしにとって、製糸工場の湯が流れ出る、蒸気に煙る諏訪湖の景色が原風景となっています。

今回、わたしどもの店が創業70年ということで、製糸業で栄えた岡谷の文化を着物にしたいという思いにいたりました。岡谷産の繭を生産している三沢区民農園に何度も足を運び、「岡谷シルク」へ携わる人たちの熱量を目の当たりにし、岡谷シルクを盛り上げる活動の一端を担うことができたなら、という思いで制作を進めてまいりました。三沢区民農園産の繭を宮坂製糸所の諏訪式練糸機で引いた「岡谷シルク」の糸は、テンションが優しく、独特な光沢が生まれます。そこに真綿糸を織り込むことで、地風を柔らかくし、カジュアルな用途に好まれる「紬」としました。それは、糸都岡谷に暮らす多くの方に、気軽に「岡谷シルク」を着てほしいという理由からです。そして、岡谷市のみなさんの意識のなかに少しでも「岡谷シルク」があってほしい、というのが「漣」を作った願いです。

岡谷のまちを、たくさんの方が岡谷シルクを纏って歩いている景色を見たい、というのが夢でもあります。

伝統と未来を紡ぐ

「岡谷シルク」

1 859年(安政6年)の横浜開港以来、生糸は約75年間、日本の輸出品目のトップの座を占めていました。岡谷市(旧平野村)は、生糸の一大生産地であり、生糸生産の最盛期であった昭和初期には、200を超える製糸工場が立ち並び日本全体の11%もの生糸を生産していました。そのほとんどが海外へ輸出され、岡谷市は海外からは「SILK OKAYA」、国内では「糸都岡谷」と呼ばれ、わが国の近代化に大きく貢献しました。

岡谷が日本一の生糸の生産地であったのは、原料である繭の確保ができたこと、優れた技術者、経営者、繭商、糸商、金融業者が支えたこと、そして糸を繰る工女さんが多く集まったことなどが挙げられます。これらのうち、いずれか一つが欠けていたら、岡谷はこれほどまでに製糸業で発展することはあり得ませんでした。

日本の発展の基盤を作った、この製糸業の歴史と文化は、岡谷市民にとって大切な地域資源です。わたしたちは、この誇りを未来へと継承するとともに、それらを礎とした「岡谷でしかできないもの」「岡谷だからできるもの」「岡谷でやるから意義のあるもの」を地域ブランド「岡谷シルク」として発信していきます。

本誌で紹介した、岡谷シルクブランド認証製品や体験事業だけでなく、教育面においても「岡谷ならではの学び」として、岡谷シルクは活かされています。市内保育園では、お蚕さまを育てる体験を行います。

幼少期からお蚕さまに慣れ親しみ、市内小中学校では、桑を育て、カイコを飼い、繭から糸を作り、糸からモノを作るところまで一貫して体験する「カイコ学習」が取り入れられています。この学習を通じて、子どもたちは生命の営みやモノづくりだけでなく、育てる心、喜び、命の大切さを学び、調査・発見・問題解決を協同的に行うアクティブラーニングを実践しています。

こうした学びは、子どもたちの豊かな情操教育・郷土愛の醸成にもつながり、岡谷シルクのブランディングは、歴史と文化を未来につなげるとともに、岡谷市の新たな可能性を切り開く取り組みとなっています。



カイコ学習のようす

「岡谷シルク」の未来

かつての岡谷は、桑園が広がり蚕を飼い、そして昭和初期には200軒もの製糸工場がひしめき合う、わが国最大の生糸生産量を誇っていたまちです。今では岡谷蚕糸博物館に併設する宮坂製糸所の1軒のみとなりましたが、一時途絶えた養蚕は三沢区民農園のみなさんによって復活し、地元の繭を用い生糸を生産することができるようになりました。また、岡谷には最終製品としての絹織物をつくる35年の歴史を重ねてきた岡谷絹工房があります。こうした地元の繭から最終製品までを商業レベルで一貫してできるのは、全国で岡谷だけと言っても過言ではないでしょう。宮坂製糸所は、明治時代からの上州式や諏訪式練糸機、戦後開発された自動練糸機を有する全国でも稀な製糸工場で、太織度・細織度・嵩のある生糸などで特徴のある製品づくりを行うことができます。これが岡谷でしかできない「岡谷シルク」となります。

岡谷市には、わが国のシルクの歴史・文化を学べる岡谷蚕糸博物館があり、養蚕・糸織りと、シルクの機織りを体験できる環境もあります。こうした輪を広げ、かつての「シルク岡谷」から、特徴のある「岡谷シルク」の生産地として、唯一無二のブランド化が図れればと願っています。

未来を見つめる
館長



岡谷蚕糸博物館
館長 高林 千幸

☆ 問合せ ブランド推進室 TEL: 23-3489 ☆